

都立 第五福竜丸展示館ニュース

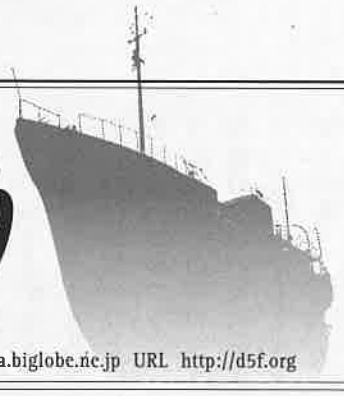
2006.06.01
No.329

(5・6月合併号)

発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.nc.jp URL: http://d5f.org

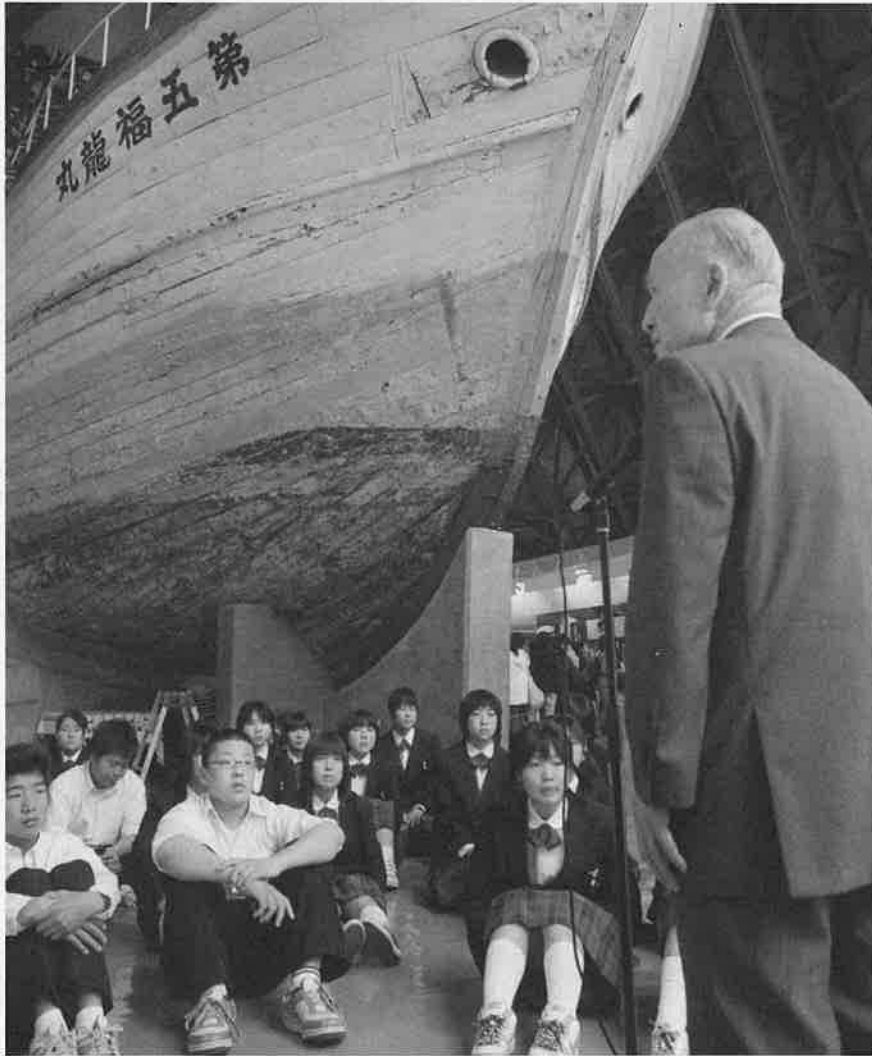
福竜丸だより



展示館開館三〇年

第五福竜丸は平和な未来めざし航海中

財団法人第五福竜丸平和協会会長 川崎昭一郎



四月半ばから六月半ばまで、展示館には各地から修学旅行生が多数訪れます。職員とボランティアガイドも毎日三校、四校と説明します。生徒達に話をする川崎昭一郎会長(5月12日撮影・飯田邦生)

都立第五福竜丸展示館開館三〇周年記念
日を迎えました。

二枚のシエルを重ねたシエルターという独特な形状をし、潮風で変色する人間味を持つ材質で作られた建物、建物内に格納された木造船体の腐朽・腐食の進行に対して早期に大補修を加え、長く保存・展示に供せられる状態にしたことなど、先ずハード面での努力、創意・工夫が偲ばれます。

また、本物の船が目の前にあればこそ、見学者に訴え、心に刻んでいただけるような解説とアピールを三〇年間にわたって続けられて来られた方々の功績を思い浮かべます。当初は少数の専従職員等が、最近ではボランティアの会の方々が担っています。

多くの博物館では貸出しテープによるセルフサービスでの鑑賞が奨励されていますが、本展示館では来館者グループのそれぞれの性格に合わせ、研修研鑽を重ねて日々新たな思いを込めた説明と案内ができている、「人間の顔をした解説」となっていることにいささかの自負を抱いています。

陸の孤島のような場所での地味な仕事ではありましたが、不満を言わずちつと仕事をされた歴代事務局員、在職期間に長短はありましたが、立派な方々に恵まれ、第五福竜丸もさぞ幸せであったと思います。

三〇代に入った第五福竜丸展示館をこれからも大切に守り、活かし、平和を育み広げる東京の拠点として、皆様とともに人類の未来と世界平和に役立てていきたいと考えています。

マーシャル諸島・核実験被害60年①

―広がる被ばく、無視される被ばく―

豊崎博光

今年、マーシャル諸島の人々はアメリカが行った水爆ブラボー実験による被災から五二年目、ビキニ環礁で最初に行われた核実験から六〇年目を迎えた。三月一日には首都マジロ島でブラボー実験による「核被害者回想の日」の集会が、同三日には核実験場となった故郷ビキニを追われた人々が移住先のキリ島で「追悼・流浪六〇周年」の集会を開いた。

二つの集会ではほとんど取り上げられなかったが、昨年、二〇〇五年四月に明らかになった米国立ガン研究所（NCI）の報告書がマーシャル諸島の人々に新たな衝撃を与えていた。衝撃のひとつは、報告書が「水爆ブラボー実験を含む一九五四年のキャッスル作戦の六回の原水爆実験によって当時のマーシャル諸島住民約一万三九四〇人（推定）

の人々、とくに当時一〇歳前後だった子供たちの間に約五三二例のガン（白血病、甲状腺ガン、胃ガンなど）が発症する」としたからである。

もうひとつは、マーシャル諸島北東部の六つ環礁・島の被ばく放射線量は「中レベル」、中部と東部の六環礁は「低レベル」、南部の九環礁・島が「極低レベル」としたからである。アメリカはこれまでに核実験の被害を受けたのは実験場となったビキニとエニウエトク環礁、水爆ブラボー実験の灰をあびたロンゲラップとウトリック環礁の四環礁の住民だけとして補償金を支払っていた。

被害はないとされた島々

ビキニ環礁の南東約五九〇キロにあるメジツト島選出のマーシャル諸島議会上院議員ヘルケーナ・アニーは「私の

島が中レベルの放射線で被ばくしていることを知って驚いた。住民の間には甲状腺ガンや乳ガンがみられているが、アメリカは、メジツト島は汚染されていないとして放射線調査を行ったことはなかった。もちろん補償も受けてはいない」と怒りをあらわにして言った。メジツト島以外にも「中レベル」の放射線で汚染されたアイルックやリキエツプ環礁などの人々も補償されていないことに怒りを爆発

させた。

マーシャル諸島全体が少なからず汚染されたことを初めて公的に認めたNCI報告書の公表は、アメリカに核実験被害に関する追加補償を請求しているマーシャル諸島政府にとって有益なものとなっている。マーシャル諸島政府は二〇〇〇年九月、核実験で被害を受けた住民と島々へのこれまでの補償金は不十分として約三二億ドルの追加請求を提出した。

被曝を認めない米政府

これに対してアメリカは、二〇〇五年一月、「核実験の被害を受けたのはビキニ、エニウエトク、ロンゲラップとウトリック環礁の住民だけであり、これら四環礁以外に核実験による被害を受けたという明白な証拠はない。マーシャル諸島住民にこれまで支払った補償金は十分なものである」と回答した。

NCI報告書の存在が明らかになったのはこの回答が公表された約三カ月後であるが、実は、報告書は二〇〇四年九月に米上院エネルギー・天然資源委員会に提出されていた。マーシャル諸島の人々は約半年の間この報告書の存在を知らされなかったのだ。

マーシャル諸島の人々がNCI報告書を知ってから今年の四月でちょうど一年が過ぎた。しかし、アメリカは依然として拡大している核実験被害の実情も追加補償も認めていない。（7月号につづく）（フット・ジャーナリスト、第五福竜丸平和協会専門委員）



ビキニの南東約590キロにあるメジツト島でもブラボー実験の閃光が目撃され、灰が降った。しかし正式な放射能調査はされず、1994年に行われた調査で初めて、住民の間から甲状腺障害や乳ガンが発見された。取材に応じてくれたメジツト島の甲状腺障害の人々。撮影・豊崎博光、2006年4月

チェルノブイリ原発事故20年、被害の深刻化に支援の拡大を

増田浩司

一九八六年四月二六日、チェルノブイリ原発四号炉が爆発し、人類史上最悪という原発事故がおこった。ZONE（ゾーン）とよばれる原発から半径三〇キロ圏内や三〇〇キロも離れた高濃度汚染地域が立入禁止となり、五〇〇もの村や町が消え、約四〇万人もの人々が移住を強いられている。また、汚染地域では約五〇〇万の人々が生活しているという。強制移住させられた人々は、もともとから住んでいた住民から「チェルノブイリツイ（チェルノブイリの人々）」「汚染された人々」と

差別を受け、仕事もなかなか見つからない。

被害の深刻化と過小評価

とくに事故直後、リクヴィイダートルとよばれる放射能処理作業に従事させられた人々は、民間防衛プランが発動されたために、旧ソ連邦全土から総数六〇万から八〇万人が動員された。リクヴィイダートルは、罹病率が極めて高いとともに複数の疾患をもち、病気・自殺などの心理的要因や失業・貧困等の社会問題で悩んでいる。また、子どもたちには免疫障害などの原因不明（被曝との因果関係が立証さ

れていない）の病気がひろまっている。

IAEA（国際原子力機関）

などの国連機関八機関が作成した報告書では、被曝と健康被害の因果関係が甲状腺がんについては認められたが、遺伝的な影響は切り捨て、事故による死者予測数は四〇〇〇人と当初の九〇〇〇人をはるかに下回る予測に国際的な批判が高まった。結局、予測数の訂正は激論のすえ、被曝線量が低すぎて差がないことで「科学的でない」とおこなわれなかった。しかし、低線量被曝の影響は、広島、長崎の被曝者の乳がんや肺がんの増加が確認されたのは二〇年後だったことを考えるなら、今後、ますます増えることになる。国際機関による大規模な疫学調査が望まれる。

ヒバク体験の共有化と支援

チェルノブイリ二〇周年で特筆すべきことは、ミンスクでのチェルノブイリ二〇年国際会議が開催されるのにあわせて、四月一九日から二一日までの間、在ベラルーシ日本大使館が原爆展を共和国宮殿



汚染除去作業に動員された青年達のキャンプ

で開催したことだ。広島市からの「ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター」パネル三〇枚が展示された。日本の政府機関が海外で原爆展を開催することは極めて異例である。人々の記憶が風化するなか、ヒロシマ・ナガサキの原爆とヒバク被災を体験した日本によるヒバクシヤ救援と核廃絶のイニシアティブが求められている。

*なお、エストニア・チェルノブイリ・ヒバクシヤ基金は今秋、被曝医療に携わっているラトビアの医師二名を放射線被曝者医療国際協力推進協議会（HICARE）と長崎・ヒバクシヤ医療国際協力会（NASHIM）の協力を得て研修に招待している。（エストニア・チェルノブイリ・ヒバクシヤ基金、第五福竜丸平和協会専門委員）

第五福竜丸平和協会は、

第五福竜丸展示館の開館30周年にあたる六月一日より特別展「写真でたどる第五福竜丸展示館三〇年」を行います。

おもな内容は、第

五福竜丸の廃船、夢の島放置、保存運動の始まり、水没の危機、展示館の建設、

開館30周年記念特別展

6月10日—9月20日

また、保存運動を広げる宣伝資材、パンフレットやバッジ、募金帳、展示館建設の設計図、開館後の企画展などの資料、協会の出版物などの現物資料が展示されます。

特別展示として、展示館開館三〇周年の記念コンサート（四月一五日）のために

完成から今日までをたどり、来館する小中学生・高校生や見学者の表情、展示館でのさまざまな催し、企画展などの模様が展示されます。

林光さんが作曲された「ラックードラゴン・クインテット」のスコアと初演のDVDが放映されます。

開館三〇周年記念コンサート開かれる

四月一五日、第五福竜丸展示館にピアノ五重奏が響きわたりました。

日本フィルハーモニー交響楽団の第一ヴァイオリン奏者石井啓一郎さん、中谷郁子さん、ヴィオラの佐藤玲子さん、チェロの伊堂寺聡さんの弦楽四重奏にピアノの寺嶋陸也さん

の演奏により、ハイライトでは林光さん作曲の『ラッキ―・ドラゴン・クインテット』

〔映画『第五福竜丸』の音楽の室内楽版〕が初演されました。一四〇名の来場者と船体にピアノと弦が響きあうコンサートの様を寛美知子さんに寄稿していただきました。

響きあう福竜丸のしらべ

寛 美知子

ステージの後ろ、高いガラス越しにみえる大木がゆさゆさとおおきく揺れ、一羽の鳥がその強い風にあらいながら飛び去ったとき、コンサートが始まりました。

ランティアの心づくしの桜湯が供され、初めての来館「第五福竜丸」や展示された資料をしげしげと見入ったりする人もいました。

モーツァルトの最初の二曲はディベルティメントK136と弦楽四重奏曲「春」でした。優しく、美しく、快活。一、二、三メートルしか離れていない目元だと奏者の息づかいまで見えて迫力ある音色です。

休憩時間には、展示館のボ

後半の「ラッキ―・ドラゴン・クインテット」は新藤兼人監督の映画『第五福竜丸』の音楽を作曲した関係で、林光さんがコンサートのため書き下ろしてくださった作品です。前半の弦楽四重奏に、ピアノが加わった五重奏です。「出航」「曳航」の二部からな

り、第五福竜丸の劇的な生涯の一部を思わせてくれました。

季節にあわせた「さくら変奏曲」は五人の作曲家が二曲づつ作った、計一〇曲の小品の組み合わせ。作曲者の寺嶋陸也さんも聞き入っていました。

再度モーツァルトが登場し、ピアノ協奏曲一二番の「鳥の歌」、そのあと、出席されていた林さんがなにげなく歌いだされたのが宮沢賢治が作曲した「星めぐり歌」(寺嶋さん編曲)でした。いくつもの星座の名前が歌い込まれた愛らしい歌でコンサートは終わりました。

本館に充実した開館三〇周年記念コンサートでした。展示館ならではの構成で

展示館の主である「第五福竜丸」タイトルの新曲、演奏

機会の少ない名曲、作曲者自らの出演などまさに展示館ならではの企画です。加えて実はこのコンサートには、いくつもの快い驚きが隠されていました。

ここまでどうやってピアノを運んだの?という疑問。あざやかな若草色の袈裟をまとったお坊様、墨田区多聞寺の岸田正博住職が司会としてごあいさつした意外性、宮沢賢治作曲作品を林さん自身のお声で聞けたこと、開会などを告げた鐘の音は岡本太郎作の梵鐘であることなど、生の演奏会でなくては味わい得ないスパイスでした。

参加者の一人は「福竜丸も初めてで、重い感じのコンサートかと思っていたが、プログラムがよくできていて演奏会として非常にすばらしかった。こういう催しが続くといいですね」と語っています。アンケートにも第五福竜丸が平和と文化が結びついた企画を発信してくれることを願う言葉がいくつもありません。

大事な事を伝える演奏してくださった日本フ

イルのメンバーは全員が初めて実物を見たわけで、第五福竜丸の姿に、歴史上の有名な出来事を身近に感じたようです。事件が起こったときにはまだ生まれていなかったメンバーがほとんどでしたから。ヴァイオリンの石井さんは「第五福竜丸は報道し続けねばならない大事なことのひとつ。そこでの演奏会に参加できて光栄です」と記して下さ

波瀾万丈の歴史の中でも、第五福竜丸が生きたヴァイオリンやピアノの奏でる音楽に触れたのは初めてでしょう。無骨なあからだにどう染み通っていったかなあと思いつながら舐先の竜骨を撫でてみました。何も応えてくれませんでした。何も応えてくれませんでした。私が、「きつと第五福竜丸は今一番幸せな時間を過ごしているに違いない。海で活躍できなくなったけれど大漁のときの魚よりも数多くの人間を励まし平和を語っているのだから。そして平和という港に落ち着くまでは頑張つてね」と祈つたのでした。

(かけいみちこ)



福竜丸のメロデイ に作曲家の林さん もあいさつ

記念コンサートのなかで、作曲家の林光さんがあいさつし、演奏者からお話がありました。

終了後、参加した方々からたくさん感想が寄せられました。

林光さんのあいさつ

モーツアルトのディベルタイメントのように最後がメダタシに終わらない曲です。それは福竜丸の運命がそうだからです。この曲をあらためて

ピアノ五重奏のために書きながら、四〇何年前の映画『第五福竜丸』の作曲のときのことを思い出していました。

プログラムに新藤さんがとてもいいことばかり書いてくださったているんですけど、実はその間にすごいことがいろいろありました。初めての新藤さんとの仕事で、毎晩家に帰っては新しい曲を書きなおして翌朝持つていってそれでもOKが出なかったことを思い出します。

この曲が再び蘇ったことは、私にとって本当に大きな喜びですし、そしてこの第五福竜丸とともに私たちの希望がずっと保たれるように心から願っております。

第一バイオリン 石井さん の言葉より

とにかく音楽にひたりながら演奏しようと思って、しかもこの船の前で特別な気持ちで演奏しました。

第五福竜丸について伝えていくときにも、音というのはひじょうに説得力があると思っています。風化させないた

めにもぜひこの曲をさまざまな場所で、我々だけではなく、いろいろな音楽家が演奏していければいいなと思っています。

コンサートに寄せられた新藤兼人監督からの メッセージ 「タぐれの抒情」より

林光さんの音楽を一口でいうと、一本鋭くおつたなかに抒情性がある。この抒情性は林光独得のもので、林さんがタぐれの原野に立っているようなものだ。わたしはこれを大事にしなければと思ってきました。これからも大切にしたいと思っている。

来場者の感想

◇第五福竜丸と一緒に聴いたコンサート、とても素敵でした。モーツアルトの快活なディベルタイメントも四重奏もピアノ協奏曲もまるで福竜丸の鎮魂歌のように優しく響

あいさつする林光さん



◇福竜丸の横でガラス越しの緑と夕日を見ながらの美しいコンサートでした。美しく重く透き通る音楽会をありがとうございました。林先生、新藤監督らの深い思いがよみがえってくると思います。

◇船や人々の運命を思いつつ心して聴きました。世界が平和に向かって一歩ずつでも進みますように。

き、特にピアノの音色は船を包み込むように柔らかくとも胸に沁みこんできて何ともいえず自然と平和に感謝を感じました。

◇第五福竜丸の存在が奏でられる音に響きあって素晴らしい音響効果をもたらしているのだと感じました。福竜丸とともに聴いた今日のコンサート、深く心に残ると思います。平和への希いをたいせつに。

◇希望のみえる音楽会。すばらしい企画でした

◇モーツアルトがひびきはじめたとたんかたわらに福竜丸が目覚めたようだった。ずいっと静かに涙が流れっぱなしでした。

◇新木場から会場までも道案内が所々にあり、手づくりであたたかいコンサートが開かれるであろうことが想像できました。木々をバックにだんだん日暮れていくなかステキな音が聞けて良かったです。いろいろな人々の思いのつまった会場であることを語り継がねばと思いました。

◇「ラッキー・ドラゴン・クインテット」が船を隣に演奏された時、自然に涙がこぼれてきました。音楽が第五福竜丸の声となって私に語りかけてきた様な気がしました。焼津を出航し夢の島までたどり着くまでの旅を語ってくれました。船は私たちと共に生きていると実感しました。

I N F O R M A T I O N

平和行進、広島へむけ出発

国民平和行進(同実行委員会)は、5月6日午後、第五福竜丸展示館前にて出発集会を開き、8月の広島に向けてスタートしました。



来館者の感想より

春の修学旅行シーズンに入り、展示館は連日たくさんの生徒であふれています。週末の来館者も多くアンケートが多数寄せられています。

・もともと戦争のことには関心があって、戦争には断固反対。将来もなにか活動ができれば少しでも力になればと思います。展示館にきて原爆・水爆の残酷さ、命の尊さ、もっとも一日を大事に暮らさないといけないと思いました。(10代・女)

・大変なことがおこっているのに全然知らなかった。これからはこういう戦争などでムダ死にを増やさないよう今からの私たちが考えていかなきゃならないと思った(10代・女)

・船にも歳があると思う。この船はどれだけつらい人生を生きてきたのだろう？これからは平和の道しるべになってほしい(14歳・男 福島県)

・たくさんの千羽ツルに圧倒されました。みんなの世界平和を願う気持ちが本当に世界中の人々の心の中に溢れる程満ちていけば良いと思いました。(16歳・女 千葉県)

・来館した小2になる娘は「こわいからイヤ」と言いました。戦争を知らない私がどんな平和教育をしていけばよいのか迷いつつ、自分の興味のあるものばかりを与えてしまった結果だと反省しました。あまり押し付けられない方がいいのかなと思っていた矢先、漢字が読めるようになった娘は展示の事実を目にし、静かにそこにとどまりました。じっくりと考えているようでした。「イヤ」というのは人間の自然な感情。そう「戦争はこわくイヤ」なものなのです。この気持ちを再確認するための大切な施設だと思います。世の中はキケンな方向に進んでいるようで不安です。共謀罪、9条改悪、教育基本法改悪など。どうか平和な世界へ、核のない世界へ(39歳・女)

・平和への思いをあらたにすることができた。東京で“核”の実在を知り、生活とのかかわりを確認できる場所があることは素晴らしいことです。長崎や広島へいかななくても迫るものがあります。(54歳・男 東京)

・平和の証し第五福竜丸の方の訴えの灯を消さないようにしたい。(66歳・男 千葉県)



◇ボランティアメール◇

5月7日ボランティアの会では、「放射線はどのように人体に影響するか」をテーマに元放医研医師の崎山比早子さんを講師にお招きして学習会を開催しました。修学旅行シーズンたけなわに、ますますはりきるボランティアの会です。

理事会・評議員会開く

財団法人第五福竜丸平和協会は、5月22日午前、2006年度の第1回評議員会を開き、つづいて午後、理事会を開いて平成17年度の事業報告と収支決算について、報告と提案、監査報告を受けて意見交換をおこない承認しました。

事業については、被爆60周年の特別展として、黒田征太郎「PIKADON展」を7月16日から8月14日におこない、秋の特別展は「手紙展」を9月23日から12月11日まで開催しました。

平成17年度の年入館者数は、12万8,488人、賛助会員は4月末現在で個人323人、団体61です。

**平成17年度の
決算についての報告**

収入の部	
科 目	金 額
事業収入	19,187,429
(展示館受託収入 17,048,839)	
(広報資料普及収入 2,138,590)	
会費収入	1,738,500
寄付金収入	2,473,282
(寄付金 551,487)	
(開館30周年募金 1,921,795)	
その他	21,755
収入合計	23,420,966
支出の部	
科 目	金 額
事業費	19,952,364
(展示事業 13,057,207)	
(資料収集事業 2,035,675)	
(広報普及事業 2,637,273)	
(その他の事業 2,222,209)	
管理費	1,924,794
固定資産取得	104,790
特定預金支出	500,000
支出合計	22,481,948
当期収支差額	939,018